Title	まちづくりと集客戦略：その最前線を探る（共同研究報告：都市経営研究）
Author(s)	中村, 準一
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.19-4：15
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=2334
Rights	

聖学院学術情報発信システム ： SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

【都市経営研究】
まちづくりと集客戦略
――その最前線を探る――

2009年10月7日、新都心ビジネス交流プラザF4聖学院教室にて第2回都市経営研究会が開催された。参加人数19名、講師に東京都市大学都市生活学部教授小松史郎氏をお招きし、上記表題について報告をいただいた。

人口減少社会においては、よいまちの基準が「人口の増えるまち」から「交流人口の多いまち」に変わった。また新まちづくり3法の施行、コンパクトシティ政策、国土交通省の観光部が観光庁に昇格といった都市再生政策・観光立国政策の強化など、近年のまちづくりをめぐる社社会環境の変化に伴いまちづくりのあり方はその発想と戦略の転換において重要な岐路にさしかかっている。

小松氏は、都市は住民のだけのものではなく、その都市を訪れる人々のものでもあるという観点から、戦後60年の日本のまちづくりの目標であった〈住みやすいまち、暮らしやすいまち〉が基本の住民発想のまちづくりに加え、今後は、集客発想のまちづくり――（大勢の人が喜んで訪れるまち＝集客都市）を探る必要性を指摘し、集客都市論の系譜をたどりながら、集客都市のもたらす効用、訪問者をいかに集客してまちを活性化させるのかについて考察した。

まちの集客戦略のポイントとして、氏は、歴史の活用、地域の個性と結びついたテーマパーク化またはイベント化などを挙げ、それが、市民が主体的に参加する継続的な仕掛けとなり、そして最終目標としての集客産業づくりに結びつく経緯を、これまで自らが関わったプロジェクト――酒田夢の倶楽（酒田市観光物産館）――や、実際の活動例――愛媛街並み博（愛媛県南予地域）、南の島の星祭り（石垣市）、南総里見まつり（館山市）、北斎館・国際北斎会議（小布施町）、国際演劇際利賀フェステヴァル（利賀村）――の映像を交えて紹介した。

発表後は、集客戦略の問題点、都市郊外の構造的問題、文化としてのまちづくりと経済効果とのつながりなどについて議論が交わされた。

（文責：中村準一　聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科博士後期課程）

（2009年 10月7日、新都心ビジネス交流プラザ4階聖学院教室）